

# HUMAN RIGHTS

人権・同和教育だより  
第 3 号  
平成 29 年 12 月 20 日発行

「HUMAN RIGHTS」(ヒューマンライツ)  
とは「人権」という意味です。



## 1 平成 29 年度後期の人権委員です。～よろしくお願ひします～

	1 組	2 組	3 組	4 組
1 年	三島 拓人 落合 仁菜	越智 亮太 山路 美羽	徳永 七留 白石 あかり	富永 優羽 野間 奈々美
2 年	篠原 峻真 今井 花音	伊藤 圭亮 久門 優衣菜	白川 貴之 藤田 涼歌	越智 美咲紀 谷尾 百花
3 年	余吾 颯麻 野村 志帆	梶谷 勇太 山本 桃果	松本 一輝 難波江 彩花	高橋 李奈 野村 綾奈

なお、委員長は 白川 貴之君、副委員長は 今井 花音さんです。

## 2 第 2 回人権・同和教育ホームルーム活動について

### □ 校内人権・同和教育ホームルーム活動研究授業の実施について

11 月 9 日(木)の 2 時限目に 304 ホームルームで、校内人権・同和教育ホームルーム活動研究授業を実施しました。



テーマは「幸せな結婚のために」。  
差別事例を元に、結婚には何が大切かを考え、正しい知識が差別解消につながることを学習しました。  
同和教育を学んでいる私たち自身が、差別解消に向けて行動を起こさないといけないと強く思いました。  
以下に一部ですがいくつか生徒の意見や感想を掲載します。

- 結婚は、両性の合意に基づくものであって、そこを理解してあげることが大切だと思いました。でも、両親の考え方によって意見が反対の方向へ行ってしまう場合もあるかもしれません。相手の人柄や性格を知ってもらうことが大切だと知ったので、両親にどう伝えるかをよく話し合い、みんなに賛成してもらいたいと思いました。

- 出身地などで人を差別するのはおかしいと思います。その人の人柄などをちゃんと見てあげればいいと思いました。一人一人が正しい知識を持っているというのも大切な事なんだと分かりました。
- 今日の結婚差別についての授業で、改めて差別というものは、絶対にしてはいけないことが分かりました。また、周りの人が結婚差別で悩んでいたら、今までに授業で習ってきたことを生かして、相談にのりたいと思いました。
- 自分が理解しているだけでは駄目で、周りの人にも正しい知識を持ってもらえるよう説明できるようにすると良いことが分かりました。

## □ 公開授業について

11月24日（金）、全校一斉に人権・同和教育ホームルーム活動を実施しました。特に3年生については、公開授業として実施しました。

	1年	2年	3年
テーマ	自分の周りに目を向けよう	人権の歴史Ⅱ 水平の旗ひるがえる	幸福な結婚のために

### 〈1年生〉

- いじめは犯罪であり、幼稚なことだと改めて思いました。クラスを明るくする笑いはあってもいいけれど、誰かを馬鹿にする笑いは起こってほしくないと感じました。もしいじめを見かけたら、自分の出来ることをしたいです。
- 各グループの発表を聞いて、グループによって嬉しいこと・辛いことの見え方や受け取り方が違うことに気がきました。相手が苦痛だと思えることがいじめなら、私はいじめられたことがあるし、いじめを見たことも、いじめたこともあると思います。いじめが起こったときの行動をもっと考えたいです。
- LGBTについて、「レズビアン」や「ゲイ」などの言葉は知っていても、深くは知らなかったもので、知ることができてよかったです。このホームルーム活動がなかったら、言ってきた人に対して避けたりしてしまったかもしれません。きちんと理解できたので、言われても変わらない態度でいたいです。



### 〈2年生〉

- 小松出身で、水平社運動に関わった林田哲雄さんの生き方を学んで、投獄されてもなお市民のために動く行動力はすごいと思いました。私自身も、これまでの生活を見直して、きちんと目標をもちたいです。
- 自分自身が、物事に対して中途半端になっていることに気づきました。今後は諦めずに最後までやりとげたいと思います。

- 何かを変えるときには、いろいろな批判はあると思います。しかし、自分自身が批判を受けてもおどおどせずに自分の意思を伝えないと、何も始まらないと思うので、少しずつでも実践していきたいです。



### 〈3年生〉

- 結婚差別が少なくなってきたとしても、無くなっている訳ではない。自分の身に起きたときのために正しい知識を身に付けて備えておくべきだと思いました。また、困ったときのために相談できる機関があることも知っておくべきだと思いました。



- 反対されても、「逃げる」「ごまかす」「あきらめる」ではなく、周りの協力を得て立ち向かうことが大切だと分かりました。「自分一人では何も変わらない」と思わず、自分が、誰か一人でもいいから、その人の考えを変えることができ、それが広がれば、社会全体が変わっていくと思います。そういう意識を持って、人権問題に取り組んでいきたいです。

- 自分が親の立場になったときに、子供にどのように接するかについて考えることは、とても新鮮でした。幸せな人生とは何かについて考えることのできるよい機会でした。正しい知識を身に付けて間違った考え方を正せるようになりたいです。



### ☆参観してくださった方からのご意見☆

取り組む姿勢が良かったです。  
真剣に話し合っていました。

寸劇を見てどう感じたかをもっと聞いてみたかったです。

自分の周囲で起きた場合の対応を、しっかり考えてほしいです。

それぞれの考える場で、ポイントを踏まえて意見が書けていました。



ご意見ありがとうございました。

# 村上 美春先生にインタビュー

by 3-3 人権委員  
松本一輝・難波江彩花

**今年度より本校に赴任された、家庭科の村上先生にお話を伺いました。**

Q1 なぜ家庭科の先生になりたかったのですか？

家政学に興味を持ち、進学した大学在学中の教育実習で、いつかはやってみたいなと思いました。



Q2 人権問題の中で、最も関心があることは何ですか？

結婚差別です。私の地元では、今でも身元を調べられることがありました。

Q3 いじめについてどう思いますか？

絶対許されないことです。

Q4 人権教育に関わる中で、特に印象に残っている出来事を教えてください。

猿まわし芸の村崎太郎さんの講演です。

(村崎太郎さんとは、「日光さる軍団」の主宰でもある猿まわし師で、2008年に自身が被差別部落の出身であることをカミングアウトしました。)

Q5 先生が今、一番ハマっていることは何ですか？

温泉。すだちを水や炭酸水にしぼって飲むこと。

Q6 小松高生に対してメッセージはありますか？

今、一緒に過ごしている仲間を大切にしてください。



**小松高祭前のお忙しい中、インタビューに答えていただき、ありがとうございました。**

**村上先生は、11月から産前休暇に入られました。お身体に気を付けて、お元気にお過ごし下さい。**